

史料室だより No. 25 東洋英和女学院史料室委員会 発行 1985年11月6日

東洋英和女学院創立100周年記念礼拝

礼拝順序

		司会 黒川 信也	
		奏楽 倉本 和	
前奏			
黙禱			
讃美歌	こどもさんびかり番	一	同
聖書朗読	マルコによる福音書 第12章28節-31節		吾妻 圓年
祈禱			
讃美歌	354番	一	同
式辞		院長 光明 照子	
校歌		中学部・高等部 短期大学	一 同
東洋英和の歌		小学部	一 同
頌栄	539番		一 同
祝禱			十時 英二
後奏			



1984年11月5日(月) 午前10時 小学部校庭

式 辞

今朝は、わたしたちの東洋英和女学院のお誕生日、創立記念日をお祝いする礼拝に、このように幼稚園から短期大学まで集まりましたのは、今年が百年という特別なお誕生日です。その長い間、この学校を守って導いて下さった神様に皆で揃って感謝のお祈りを献げるためです。小さい人達にも分かるようになるべくやさしくお話をしはじめようと思います。

まず第一に、この学校はどういう風にして生まれたのでしょうか。百年も前、今日ここに集まっている者達の中には、一番小さい方はたぶん4才位です。一番大きい方でもとても百才には及びません。その百年も前、見も知らない太平洋の向う側にある遠い日本という国の子供達のために、カナダのメソジスト教会の婦人方がこの学校を造って

東洋英和女学院院長 光明 照子
下さったのです。カートメルという先生が一番初めの校長先生で、はじめ、生徒はたった2人きりだったそうです。なぜ、そんな時にそんな学校を造ったのでしょうか。それは神様がこの世界をお造りになり、私達人間は子供も大人も、女も男も、国や言葉や肌の色や仕事や、その他にいろいろな違いがあっても、皆ひとりひとり大切な掛け替えない神様の子であるということを教えるためだったのです。で、そういう風にして建てられて、神様が百年の間、守って下さった私達の学校は、どういうことを一番大切にしようと、また、それを願っている学校でしょうか。もちろん、学校で毎日、私達は勉強を続けます。それだけではないのです。まず第一番目に、皆が神様の子らしく自分を大切にすることを学ぶことなのです。その次

に、他の人、外の人、知っている人も知らない人も、よその国の人も、また、好きな人も好きになれない人も皆、自分と同じように神様の大切な子供であることを忘れないで、大切にすることを学ぶことです。自分を大切にすることとは、あまりやさしいことではありません。もちろん、自分のしたい放題をすることではありません。神様がひとりひとりに下さっている体と心と様々な能力を十分に伸ばして、神様と世の中のためによく尽せるような人間になることなのです。そして、他の人もそうなるように手伝うこと、助け合うこと、協力することです。こういうことができるようになるのには、私共は心を開いて、神様の御心が何かを聞く耳を持たねばなりません。学校や教会で讚美歌や聖書に私共が親しみ、勉強するのは、そのためであります。これが学校の標語「敬神・奉仕」の意味ですし、さきほど読んでいただいた

聖書のお言葉の意味です。さて、百年という歳月は日本にも世界にも創立の時には予想もしなかった大きな変化を持たりました。で今、私達はその激しい変化の真只中に置かれています。そして多くの問題に直面しています。この文明の危機を乗り切るためには、私共の意識と考え方と価値観の転換が必要であることは明白です。変えるべきものと変えてならないものと誤りなく判断する力と勇気とを神様は与えて下さるように祈りましょう。今日までこの学校のために献身された大勢のカナダの先生方、日本の先生方はじめ、多くの学院の理解者、支持者のおかげで創立百周年を迎えることができました。心からの感謝を献げたいと思います。

これからも皆で私達の学校を大切にしていきたいと思います。

創立100周年記念講演会

『 教 育 は ど こ へ 』

永井道雄氏

(昭和59年11月7日 於 M.クレグ記念講堂)

光明院長の御紹介にもあるように、永井氏は、京大、オハイオ州立大を卒業後、京大、東工大、また広く、アメリカ、メキシコ、香港等の大学で教鞭をとられた御経験に加えて、文相、朝日新聞客員論説委員、並びに国連大学々長特別顧問という当代きっての国際派であり、そのユーモア溢れる語り口をもって、今日の我が国の教育環境をとりまく情勢分析を伺うことが出来た。氏のお話は、明治時代の変化混迷の中で、カナダ・メソジストミッションによって、学院が創設された時以上に、今日の変化の度合は著しく、その変化の質を考え、それに対応していく確かな姿勢が必要であるということ強調され、学院創立の由来は、そのまま、今後の我が国のすすむ方向をみさだめる上で象徴的であると感じられる内容であった。

氏によれば、今日の変化を(1)国際化、(2)高齢化、(3)情報化という観点から、各々について、経験にもとづいた豊富な例をひきながら、お話しいただいた。(1)国際化——国際化といわれる現在の背景には、経済優位がある。明治時代、敗戦後の日本とが共通にかかえていた問題に、国家の独立と衣食住の満足とがあり、その目標達成のために経済的力をつけることが急務であった。昭和30年から45年までの15年間の変化は著しく、しかし、GNP3倍という数値にまどわされることなく、それに伴う、頭・心の国際化について真剣にとりくまなければならない。異文化の受入れに対応する思考の底流には、同じ人間だという考えに立たねば、長期的な仕事は不可能である。一般には日本種で団結してしまう傾向から脱して、日本人、非日本人とが同じ人間だという意識を先行させることが

重要である。感情的なものとか、会話という問題が早くから、その国際化の際に最重要課題と説かれていながらも、遅々として進まない。今や経済、社会面の発達とアンバランスになっているこの問題について本腰をいれて取りくむべき問題である。

(2)高齢化 — 高齢化に伴い、社会の老化も次第に老人向けの対策を自らの側からこうじることをせまられている。(3)情報化 — さてこれは(1)の国際化と密接なことであるが、今日の情報源、量の拡大は、遙かに想像を超えたものになっている。特にテレビを中心とする、衛星放送などの飛躍的に拡大変質しているマスコミの利用、加えて従来の学校教育での基礎的情報、更に企業体自体が、販売網拡大のための市場調査に伴う収集保有情報にかけている開発費は年間4兆円にも及ぶという。また法律にもとづく行政機関であったところの役所自体も巨大な情報組織と化している。

このように複雑な情報化システムの中で我々の家庭にあって、その情報をキャッチ応用できる方

向をめざしている。INF、ケーブルTV、ケーブルテンシステム、テレトピア等、試験的段階とはいえ、近い将来確実な存在として考えられるものがそれである。現実には、情報過多による世の中の混乱は目にみえており、悪化する可能性は大である。それは情報の質の維持の困難さ、シナリオの不要化、即物的な暴力、性化をまねき、そのような環境に、今や、我々、我々の子供たちが、とりかまれていること。そして今後この傾向は一層強められるであろうという認識を、両親、大人がもつことがもとめられている。情報機器の拡大が、学校外の情報禍を生む。科学技術と人間の関係を問い直すことこそ、今日、人間の知恵を要する大問題である。と。

この創立100周年目は創立時と同じ位、いやそれ以上の大変化の最中にあるのだということを一たび、みな様の心に問いかけてこられたお話でした。(テープよりまとめさせていただいた。)

100周年記念出版・記念特集号目録

東洋英和女学院

- 1.『東洋英和女学院百年史』 東洋英和女学院百年史編纂実行委員会編 1984 写真6頁+705頁
- 2.『東洋英和女学院資料集』 第1条 史料室委員会 1984 写真、年譜3頁+39頁(ミス・カートメル関係資料)
- 3.『史料室だより』 23号、24号、25号 史料室委員会 1984、1985
- 4.『創立100周年記念 全院教職員協議会 昭和57年~59年 第3次記録』 全院教職員協議会実行委員会 1984 40頁
- 5.『東洋英和女学院 創立100周年記念事業募金報告書』 学校法人東洋英和女学院 1985 51頁
- 6.『めぐみ』 No.100 記念号 小学部院教部 1984
- 7.『ぎんなんだより』 No.27、No.28 小学部母の会 各21頁
- 8.『こひつじ』 44号 創立100周年記念号 2巻 1985 156頁、251頁(第1巻1~3年、

第2巻4~6年文集)

中・高等部

- 9.『楓』 第28号 東洋英和女学院中学部高等部生徒会 1985 写真9頁+68頁+記念祭プログラム18頁
 - 10.『かえて』 第65号 東洋英和女学院新聞部、1985
 - 11.『母の会だより』 No.54 創立百周年記念特集 中・高等部母の会 1985、16頁
- #### 短期大学
- 12.『短大だより』 34号 1984 6頁
 - 13.『Toyo Eiwa Jogakuin since 1884 Lambs Association』 東洋英和女学院聖書研究会 1984 26頁(100周年記念文集)
- #### 同窓会
- 14.『東光 東洋英和女学院創立百周年記念』 東洋英和女学院東光会 1984 写真8頁+238頁(同窓会文集)
 - 15.『東光』 21号 東洋英和女学院東光会編集室 1984 6頁
 - 16.『東光 東洋英和女学院創立百周年特集号』 東洋英和女学院東光会 1985 16頁

＝ 創立100周年記念音楽会 ＝

1984年12月6日(日)

(I)10:00 (II)2:10

於：昭和女子大学人見記念講堂

御 挨拶

東洋英和女学院院長 光 明 照 子

東洋英和女学院は本年めでたく創立100周年を迎え、記念式典をはじめさまざまな事業と行事が計画されました。

本日はその最後を飾るにふさわしく、幼稚園より小学部、中学部、高等部、短期大学まで、全学院をあげて、記念音楽会を催すことになりました。

日頃から本学院は、キリスト教に基づく教育の一助として、宗教音楽をふくむ音楽教育に力を入れ、宗教的情操を養うとともに美しい音楽を愛する心を育てる努力を払っております。

本日は幼児から学生まで、それぞれに用意いたしましたプログラムをお聴き頂き、創立100周年の感謝とよろこびを共にして下さいますようお願い申し上げます。

御来場を賜わり厚く御礼申し上げます。

100周年記念音楽会委員

- 丹 羽 輝 子 (幼稚園)
- 高 橋 順 子 (小学部)
- 照 屋 美 和 子 (小学部)
- 小 田 圭 子 (中学部)
- 河 野 和 雄 (中学部)
- 飯 島 千 穂 子 (短期大学)
- 大 宮 暁 美 (ピアノ科)

第 一 部

礼 拝

讃 美 歌
聖 書
祈 禱

こどもさんびか1番
詩篇98篇
コロサイ人への手紙 3章12～17節

十 時 英 二

開会のことば

院 長 光 明 照 子

1. ハンドベル

- 1) グローリア……………フランス・キャロル
カラハン編曲
- 2) ハレルヤ……………ヘンデル作曲
ローレンツ編曲

中学部ハンドベル部
指 揮：和田 るり(高2)
石井 早苗(高2)

2. 合 唱

- 1) みんなであそぼ(二部合唱)……………斎藤喜博 作詞
近藤幹雄 作曲
- 2) いざうてタンブリン(三部合唱)……………ブルガリア・ノエル
木岡英三郎 作詞

小学部1・2・3・4年生
指 揮：照屋美和子
ピアノ：瀬 麻衣子
田辺 由佳

3. ピアノ独奏

- 1) 東の間の幻影 OP. 22……………プロコフィエフ 作曲
- 2) アラベスク OP. 18……………シューマン 作曲

吉川亜矢子(小4)
岸 江里子(小6)

4. うた・音・リズム

“おうまれのイエスキリスト”……………森井 眞 訳詞
松田孝一 編曲
フランス・キャロル

東洋英和幼稚園
短期大学附属かえで幼稚園
短期大学保育科芝セミ・有志
ピアノ：丹羽 輝子

5. ピアノ連弾

日本ふうのメロディによる主題と変奏曲(2台8手)……………
中田喜直 作曲

門井 直子・浦上朋子(小6)
赤田和歌子・中岡朗子(小5)

6. 合 唱

- 1) 冬の夜の雪に咲きそめたる(二部合唱)……………ビエトロ・エ・ヨン 作曲
木岡英三郎 訳詞
- 2) 天はみ神の栄光を語り(三部合唱)……………ハイドン 作曲
津川圭一 訳詞・編曲

小学部5・6年生
指 揮：照屋美和子
ピアノ：渡辺真裕美

————— 休 憩 —————

7. オペレッタ

“ヘンゼルとグレーテル”……………ファンパーティング 作曲

キャスト
装置製作
振 付
ピ ア ノ

保育科2年飯島セミ
1・2年有志
保育科2年飯田セミ
山崎 竜子
馬場 則子・大野寿美子

第二部

	礼 拝	奏 楽	羊は安らかに……J.S. バッハ	告 麦 同 年
	前 讃	美 歌	9 番	
	聖 書	禱 歌	詩篇 150篇	
	祈 合	禱 唱	歌声もて……M・ショー	聖 歌 隊
	後 奏			
1. 合 唱	「愛」——信仰・希望・愛——より……G.A. ロッシーニ 作曲			高等部3年 指揮：齋藤 明夫 ピアノ：姜 山里
2. 小オラトリオ	クリスマス物語……C. オルフ 作曲			中学部1年 指揮：河野 和雄
	————— 休 憩 —————			
3. ハンドベル	テクスチュアース……J.A. ヒルティ 作曲			ハンドベル部 指揮：河野 和雄
4. 合 唱	1) 流浪の民……R. シューマン 作曲 2) ラシーヌの讃歌……G. フォーレ 作曲			音楽部・合唱同好会 指揮：堀 律子 ピアノ：三井佐知子(高1) 小宮山浩子(高2)
5. 合 奏	おもちゃの交響曲……F. J. ハイデン 作曲			高等部2年音楽選択者
6. ピ ア ノ	1) パストラーレとカブリッチオ……D. スカルラッティ 作曲 2) マ・メール・ロア……M. ラ ベル 作曲 3) ワルツ・ブリランテ……M. モジコフスキー 作曲			原由美子・丸谷仁美(中2) 石橋重矢子・伊藤麻子(高1) 福田幸子・藤山知世(中3) 黒田浩子・小石織江(高1)
7. 合 唱	クリスマス・カンタータ……A. オネゲル 作曲 小山 順子 編曲			指揮・独唱：齋藤 明夫 児童合唱：小学部6年 合唱：中学部2・3年 高等部1年音楽選択者 短期大学保育科1年他 ピアノ：岡本 明子 小田 圭子 オルガン：川口 寿子 合唱指導：照屋美和子 飯島千雅子
	校 歌			一 同
	閉会のことば			高等部長 齋 藤 浩 二

演劇という総合的な活動の、大道具、小道具製作の部分を、今回は保育科2年の学生18名（絵画製作＝飯田ゼミ）が引き受け、短い期間でしたが、用を思い、機能に思考をめぐらせながら鋸、金鋸と取組み、更に美しさをも求めている悪戦苦闘は、結果はとも角も貴重な経験でした。（短期大学教授 飯 田 泰 造）

100周年を迎えるにあたり私は50周年の頃を懐しく思い出す。ひたすら踊りに夢をふくらませて帰る暮れかかった学校の前の通りを長い竿を持った人がガス燈を一つづつ灯して歩いて行った。戦後私は保育専攻科にまねかれた。スクルトン先生はリトミックの授業を参観されて「私の望みだった」と喜ばれた。又、中高の体育の授業をアズかった事もあり、小学部の課外の舞踊も指導した。その後、短大となり英文科も数年前まで受けもっていた。私にとって母校はかぎりなく愛しい。100周年を迎えて思い出はつきない。

（短期大学非常勤講師 山 崎 竜 子）

本日演奏されます、オネゲル「クリスマス・カンタータ」は、オーケストラ・童声と混声四部合唱の為の壮大な原曲を、本学100周年を祝し、記念音楽会用にピアノ2台とオルガン・童声と女声四部合唱という編成に編曲し直したものです。作曲家アルトゥール・オネゲルは、1892年フランスのルーアーヴルに生まれ1955年パリに没したスイス人で、ミヨーと並ぶ第一次大戦後のフランスの代表的作曲家の一人です。主要作品には合唱付の劇的作品「ダビデ王」（1921）「死刑台上のジャンヌ・ダルク」（1934～35）等があり、この「クリスマス・カンタータ」は1953年、晩年の作品にあたります。

原曲は大きく3部分にわかれ、第1部——オーケストラの不協和音と合唱のユニゾンを中心とした重苦しく混沌とした状況の中の子音、そしてクリスマスの喜びを告げ知らせる叫びを経て子供達の澄んだ高音が登場し、第2部へと導きます。第2部——キャロルが次々と現われ、童声とソプラノ、アルト各声部による掛けとなり、さながらキャロルの祭典といった楽しい部分です。その後一旦静かになり、第3部——フィナーレ（アレグロ㉔）へとなだれ込みます。今回は第1部の前半を割愛し導入—叫びからフィナーレまでの作品としてまとめました。100周年祝賀の歴史的行事にふさわしく、小学部から中・高・短大まで全学調和した素晴らしい歌声が響きわたる事を期待しております。（短期大学非常勤講師 小 山 順 子）

創立100周年記念行事・事業記録目録

I 全学院記念行事

行事等	日時	場 所	記 録
中・高等部校舎及び体育館竣工式 記念礼拝	9月5日 后2:00 11月5日 前10:00	中・高部集会室 小学部校庭	テープ・アルバム・式次第 ビデオ2巻#9&10・式辞(原稿及び「史料室だより」#25)・ネガ#9・アルバム・式次第
記念美術展 (美術科主催)	11月5日～ 7日	中・高部校舎内	
記念展示・写真展 (史料室主催)	11月5日～ 7日	中・高部新校舎	展示品リスト
記念式典 お茶の会	11月6日 后1:30	中・高部新体育館集会室	ビデオ5巻#11-15、β3巻#16-18・テープ・式辞(原稿及び中高部「母の会だより」#54要約)ネガ#10-12・アルバム・式次第
記念講演会 講師 永井道雄氏 「教育はどこへ」	11月7日 后2:00	中・高部マーガレット・クレーク講堂	ビデオ4巻#19-22・テープ・ネガ#13・アルバム・講演要約「史料室だより」#25
全院教職員協議会	11月22日 前8:30	学院内	『創立100周年記念、全院教職員協議会 昭和57-59年 第3次記録』
記念音楽会	12月6日 前9:00	昭和女子大学人見記念講堂	ビデオ15巻#27-41・ネガ#17-23・アルバム・プログラム
創立100周年 記念教職員祝会	12月21日 后6:00	東京プリンスホテル	プログラム
横浜校他 短期大学校舎等新築工事 起工式	1985年 4月11日 后2:00	横浜市緑区三保町字大谷 横浜校他	ネガ・アルバム・式次第

II 各部記念行事

幼稚園

学院のお誕生会	11月7日	幼稚園園舎	アルバム
クリスマスのため のこどものつどい	11月17日	幼稚園園舎	アルバム

小学部

学芸会	11月1日～ 2日	小学部講堂	ビデオ4巻#3-6・ネガ#6-8・写真・プログラム
写真展示会 (母の会主催)	11月2日～ 3日	小学部視聴覚教室	展示リスト

行事等	日時	場所	記 録
中・高等部			
楓祭 (生徒会主催)	10月8日～ 11日	中・高部校舎	『楓』1985・写真・プログラム
運動会	10月30日	東京都体育館	ネガ#2-3・写真・『楓』1985
記念祭 (生徒会主催)	10月31日	中・高部校舎	『楓』1985・写真
短期大学			
かえで祭 (学生会主催)	11月2日～ 3日	短期大学校舎	ビデオ2巻#7-8・ネガ#4&5・写真・ プログラム
Ⅲ 同窓会行事			
東光会記念祝賀会	11月8日	中・高部マー	ビデオ4巻#23-26・ネガ#14-16・写真
礼拝及びお茶の会	后1:30	ガレット・ク レーグ講堂	『東光 東洋英和女学院創立百周年特集号』 会次第
東光会祝賀音楽会 卒業生による器楽 演奏・コーラス	12月6日 后6:00	昭和女子大学 人見記念講堂	(記念音楽会参照)・『東光 東洋英和女 学院創立百周年特集号』・プログラム
Ⅳ 後援会行事			
式典及び パーティー	10月15日 后5:30	中・高部集会室 国際文化会館	ビデオ2巻#-2・テープ・ネガ#1・写真
Ⅴ 記念事業			
中学部・高等部校 舎・体育館建築工事	1982年7月～1984年8月		「創立100周年記念事業募金報告書」
幼稚園改修工事	1981年7月～1984年8月		「創立100周年記念事業募金報告書」
小学部改修工事	1981年7月～1984年8月		「創立100周年記念事業募金報告書」
横浜校地取得 造成工事	1980年11月 1984年1月～1985年7月		「創立100周年記念事業募金報告書」 「創立100周年記念事業募金報告書」
校外教育施設整備 (横浜校地)	1984年度		「創立100周年記念事業募金報告書」
短期大学移転校舎 等建築工事及び新 科開設	1985年4月～1986年2月		「創立100周年記念事業募金報告書」
注 ビデオ・テープ・ネガ・アルバムは本部管理			

100周年記念品目録

〔東洋英和女学院〕キャンドル・スタンド、レコードEP「校歌」、レコードLP「風にそよぐ美しきもの」〔幼稚園〕キー・ホルダー、記念バッジ(母の会作製)〔小学部〕ペンシル・ケース(母の会作製)〔中・高等部〕アドレス・ブック、

シャープペンシル、ペナント2種(母の会作製)〔短期大学〕キー・ホルダー(学生会作製)〔同窓会〕ペンダント(楓型とT・E文字型)、ハンドバックハンガー、スティック・ピン(東光会作製)、マグカップ、ふくさ(保育部会)、ティーカップ(かえで会)

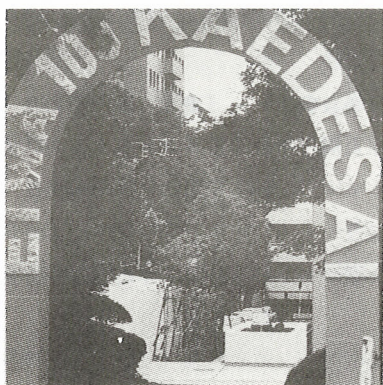
創立100周年記念行事 1984-1985



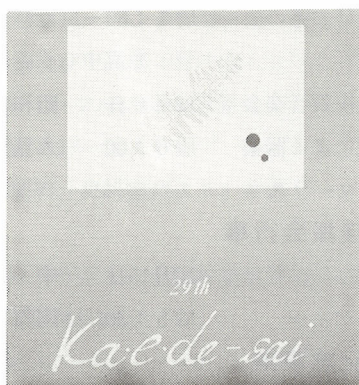
幼稚園クリスマスのこどものつどい



小学部学芸会 おしゃべりたまごやき



中・高等部 第16回 楓祭 “2世紀の扉を開こう”



短期大学 第29回 かえで祭
“Maple Leaf Forever”



中・高等部新校舎、体育館竣工式



横浜校地短期大学校舎等新築工事起工式

— あ と が き —

創立100周年記念行事、事業（1984～1985）記録号を送る。史料室委員会はあっても、残念ながら史料室がない現実ではここに収録した記

録は各部署に散在したまゝである。将来の利用に備えて、史料室の確立を訴えてあとがきとする。
（短大 石津・伊勢）